

11.30 集会「いま 戦争と憲法に向き合う」の報告

15 人が呼びかけた集会

11 月 30 日、神奈川を代表する 15 人の呼びかけにより、「11・30 集会 いま 戦争と憲法に向き合う」が神奈川県民ホールで開催され、約 800 人が集まりました。うち、当日券は 267 枚で、新聞折込の効果があったようです。

集会の実行委員長は岡田尚さん、事務局長は高橋由美さんで、呼びかけ人は、福田 護、森 卓爾、石黒康仁、馬鳥 敦、長瀬嘉宏、高橋廣康、住谷和典、菅野健一、水谷正人、後藤仁敏、仲築間卓蔵、中森圭子、新倉裕史、高梨晃嘉、伊藤 新の 15 氏でした。

神奈川のうたごえの皆さん

オープニングは神奈川のうたごえの 50 名以上の皆さんが、美しい合唱により「青い空は」と「今もどこかで」の 2 曲歌いました。指揮は松本良江さん、ピアノ演奏は荒奈津子さんでした。すばらしい歌声に会場全体が魅了されました（写真 1）。

司会の金正徳さんが登場し、神奈川のうたごえと山崎洋子さんを紹介しました。



写真 1 神奈川のうたごえの皆さんによるオープニング

山崎洋子さんの挨拶

作家の山崎洋子さんは次のように開会のあいさつをしました（写真 2）。



写真 2 挨拶する山崎洋子さん

宮津生まれの私は成長して横浜に来て、戦争について考えるようになった。45 年 5 月 29 日の 8000 人から 1 万人が殺された横浜大空襲、戦後の占領軍の支配です。政府は米兵のための慰安所を設けた。生まれた子どもたちは闇に葬られたこともあった。

今日は戦争と憲法について、田中優子さんと金平茂紀さんが講演されます。素晴らしいお話ですので、ぜひ、お聞きください。

田中優子さんの講演

田中優子さん（法政大学名誉教授）は、「改憲発議と自民党憲法草案」と題して、以下のように話しました（写真 3）。



写真 3 講演する田中優子さん

私は横浜生まれの横浜育ちで、神奈川の皆さんにお話する機会をいただき嬉しく思います。

自民党は 18 年に改憲 4 項目を発表したが、それは入り口でその先には 12 年に作成した自民党憲法改正草案がある。

現行憲法と比べると、天賦人權説を否定し、緊急事態条項をもうけ、憲法尊重義務を天皇・国務大臣・国会議員・公務員から国民に変えた。勝共連合の改憲案と同じ家族の保護を加筆している。

菅前首相は 23 条の「学問の自由」を知らなくて学術会議会員の任命拒否をしたが、同じ法政出身者として恥ずかしくなり、総長声明を出した。

改憲 4 項目の先には自民党案に書かれた異なる社会像があることをしっかり理解してほしい。

金平茂紀さんの講演

金平茂紀さん（TBS テレビ）は、「ウクライナ・憲法・メディア」と題して、次のように講演しました（写真 4）。

2022 年は 50 年前の 1972 年と似ていて、分岐点と



写真 4 講演する金平茂紀さん

位置付けられる。1972年には、札幌五輪、ベトナム戦争激化、沖縄返還、日中国交正常化などがあった。

今年 2022 年は、新型コロナウイルスのパンデミック、ウクライナ戦争が起こり、国家とは何かが問われ、正義論と平和論が対立した。戦争は人殺しであり、一刻も早く和平を実現する必要がある。9 か月間で、何万人死んだのかも明らかにされていない。

安倍元首相が銃殺された 7・8 事件では、「パンドラの箱」が開いた。旧統一教会と自民党との構造的癒着が暴露され、国論分断のなかで、安倍元首相の神格化のため「国葬」が強行された。

ウクライナ侵攻は、歴史の切断点だ。日本につけたのは、戦争はしてはならない、でも他国から侵略されたら防衛のための戦争はやむを得ないのではと、憲法 9 条の根源的精神が問われている。

これはまぎれもなく侵略戦争なのに、「特別軍事作戦」と言っている。『満州事変』はじめ、あらゆる戦争は「自衛」「平和の維持」の名目で行われてきた。

私は、イスタンブールから陸路でルーマニアを経由して、2 月 25 日にウクライナに入った。

人びとは核シェルターに避難し、ウクライナからルーマニアに逃げる人びとでは、子連れと妊婦は優先されていた。

戦争になれば、勝つための報道になってしまう。BBC はロシア兵の死体を写したが、それはチェチェン人だった。

ガルージン駐日大使は離任し、後任は指名されず、駐日大使がいないうちでこの出来事の本質だ。ロシア人にはチャイコフスキーもドストエフスキーもいて、ロシア＝プーチンではない。

日本では、憲法改正の動きが活発化し、防衛費を増大して世界第 3 位の軍事大国へ、沖縄・南西諸島の基地機能強化が進められている。

戦争をしてはいけない、殺すな！の声を上げよう。

「正義の戦争」はない。武器供与は「加担」だ。歴史を学ぶこと、ロシア国内の民衆の声と連帯することが大切だ。

この場にいる人は少数派で、小異を捨てて大同につくこと、分断より連帯を、声を上げ続けること、メディアを応援し、魅力的なひと・こと・もの、ユーモアを忘れないでほしい。

青年の発言

その後、青年から発言があり、それに山崎・田中・金平さんが応えました（写真 5, 6）。



写真 5 青年の発言に応える田中、金平、山崎さん



写真 6 講演された金平茂紀さんと田中優子さん

最後に、岡田尚実行委員長が「参院選の結果、改憲派にとっての『悪夢の 3 年』と言われたが、7・8 事件で大きく情勢が変わったという認識を共有しましょう」と閉会挨拶しました。

出演された神奈川のうたごえ、山崎洋子さん、田中優子さん、金平茂紀さん、参加された皆様、スタッフの方々、写真を提供された石井拓生さんに厚くお礼を申し上げます。

九条かながわ No.25

発行 九条かながわの会

2022 年 12 月 10 日 発行

〒221-0823 横浜市神奈川区

二ッ谷町 2-9 ニッ谷コア 202

電話 090-7175-1911 Fax. 045-894-1052

E-mail: article9@nifty.com

HP : <http://9kanagawa.la.coocan.jp/>